



## 射和繁栄の面影

延命寺と句碑  
 後にして、三  
 千風の生家・三井  
 家の菩提寺・本宗  
 寺にたたずむ三  
 井家の墓に手を  
 合わせます。そ  
 の後、さらに東  
 へと歩くと、四



本宗寺

つ角に建つ道標に気付きました。「久ま  
 の野ミチ」などの文字が読み取れます。こ  
 こは、旧熊野街道。かつては多くの巡  
 礼者が往来したことでしょう。さらに  
 この場所には、射和を代表する豪商・富  
 山家の屋敷がありました。道標の近く  
 に立つ句碑には、三千風が屋敷の脇に



道標



道標の近くに立つ句碑

あった。富の松と呼ばれた松の木を題  
 材にして詠んだ「富松は常盤蓬萊の飾  
 かな」の句が記してありました。

道標と句碑に別れを告げて東へ進む  
 と、道の両側に重厚な建物が現れまし  
 た。いずれも射和商人として名を馳せ  
 た国分家と竹川家の屋敷です。なお、  
 竹川家の竹川竹斎(1809～188  
 2)は、幕末から明治時代にかけて政  
 治・経済・文化人として活躍した人物と  
 して知られています。

射和繁栄の面影が残る家並みを眺め  
 ながら町はずれまで歩くと、蓮生寺に  
 到着しました。同寺には三千風の幼少  
 時の師匠・祐順法師の墓があります。三  
 千風は、仙台に約15年間滞在した後、  
 全国行脚の旅に出ますが、その途中で



蓮生寺門前に立つ句碑

度々、射和に帰郷していました。その  
 際には、必ず同寺にも立ち寄り、師匠  
 の墓前に手を合わせていたといえます。  
 門前には、師匠を偲んで詠んだ句「おも  
 かげの桜モノ云フ 碑銘かな」がたたず  
 んでいました。

「次は大日堂です」との案内で、来た  
 道を少し戻り  
 ます。お話の  
 大日堂がある  
 場所は、伊勢  
 国司・北畠氏  
 の祈願所だっ  
 た射和寺(福  
 願寺・福龍寺)



大日堂



大日堂内に立つ句碑

の跡地。地域の人々は「射和寺さん」と呼  
 び親しみます。三千風も同寺のために  
 句を詠み、その中の一句「はねかへる  
 一葉おとしや獅子楓」を記した句碑が  
 立っていました。なお、堂内の収蔵庫  
 には、南北朝時代の作といわれる木造  
 地藏菩薩坐像(国指定重要文化財)が安  
 置され、毎年春分の日と秋分の日に行  
 われる彼岸会(ひがえ)で公開されます。

の歴史を有する「射和祇園祭り」(県指定  
 無形民俗文化財)が執り行われ、賑わい  
 ます。神社内には三千風が元旦に初詣を  
 終え、朝日を拝んだ際に詠んだ句「元朝  
 や麟鳳遊ぶ神乃松」を記した句碑が  
 立っていました。なお、麟とは麒麟の  
 こと、鳳とは鳳凰のことだと教わりま  
 した。



伊佐和神社  
 にお参りした  
 後は、西へ進  
 み、三千風の  
 句「柳櫻 鐘木やかざす宮古山」を記し  
 た句碑が立つ宮古山十王院跡へ向かい



伊佐和神社境内に立つ句碑

## 故郷に眠る 漂泊の俳人

大日堂からは北へと進  
 路を変え、伊佐和神社を  
 めざします。少し高台に  
 位置し、普段はひっそり  
 としています。毎年7月  
 中旬には、300年以上



共同墓地にたたずむ三千風の墓

がらも、  
 故郷を愛  
 した三千  
 風の想い  
 が伝わっ  
 てくるよ  
 うでした。

宮古山十王院跡に  
 立つ句碑  
 実はこちら近くに三千風の墓が  
 あるのです。北海道を除く諸  
 国をほとんど踏破した三千風  
 でしたが、69年の波乱の生涯  
 を終えたのは、射和に滞在中  
 のことでした。友翰法師と刻まれた墓  
 石を眺めていると、自由奔放に生きな

問 射和地区まちづくり協議会

TEL 0598-29-2002

※印の写真は取材先から提供していただきました